

2027年3月期 第2四半期（中間期）決算補足資料

株式会社 き も と

2026年10月30日

1 2027年3月期 第2四半期（中間期） 決算について

2 高機能材料事業

3 デジタルツイン事業

4 第6次中期経営計画進捗

5 会社概要

2027年 3 月期 第 2 四半期（中間期）実績 前年比 [連結]

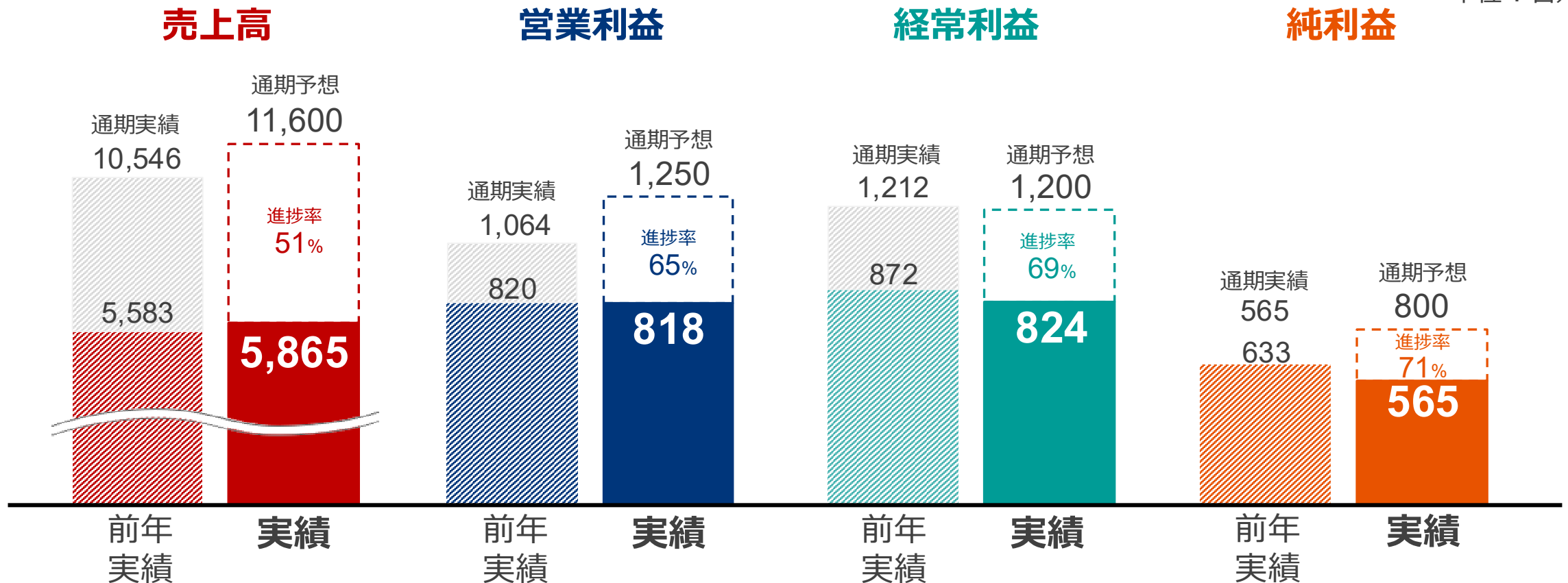
■ 通信機器向け製品は新機種の量産が進み、電子部品製造工程用製品も好調に推移しました。輸送機器向けではバッテリー関連に回復の動きが見られ、産業機器向け製品も売上に貢献しました。

	2027年 3 月期 通期 予想	2027年 3 月期 中間期	2026年 3 月期 中間期	増減	増減率(%)
単位：百万円					
売 上 高	11,600	5,865	5,583	282	5.1
売 上 総 利 益	-	2,386	2,332	53	2.3
販 売 管 理 費	-	1,568	1,512	56	3.7
営 業 利 益	1,250	818	820	▲ 2	▲ 0.3
経 常 利 益	1,200	824	872	▲ 48	▲ 5.5
税 引 前 利 益	-	818	872	▲ 53	▲ 6.2
純 利 益	800	565	633	▲ 68	▲ 10.7
一株当たり純利益（円）	18.32	12.96	14.05	-	-

損益計算書 前年・予想比 [連結]

- 中国市場や欧州の自動車生産低迷の影響を受けたものの、通信機器向け製品は新機種の量産や電子部品製造工程用製品の好調が業績を下支えし、産業機器向け製品も貢献するなど、おおむね堅調に推移しました。

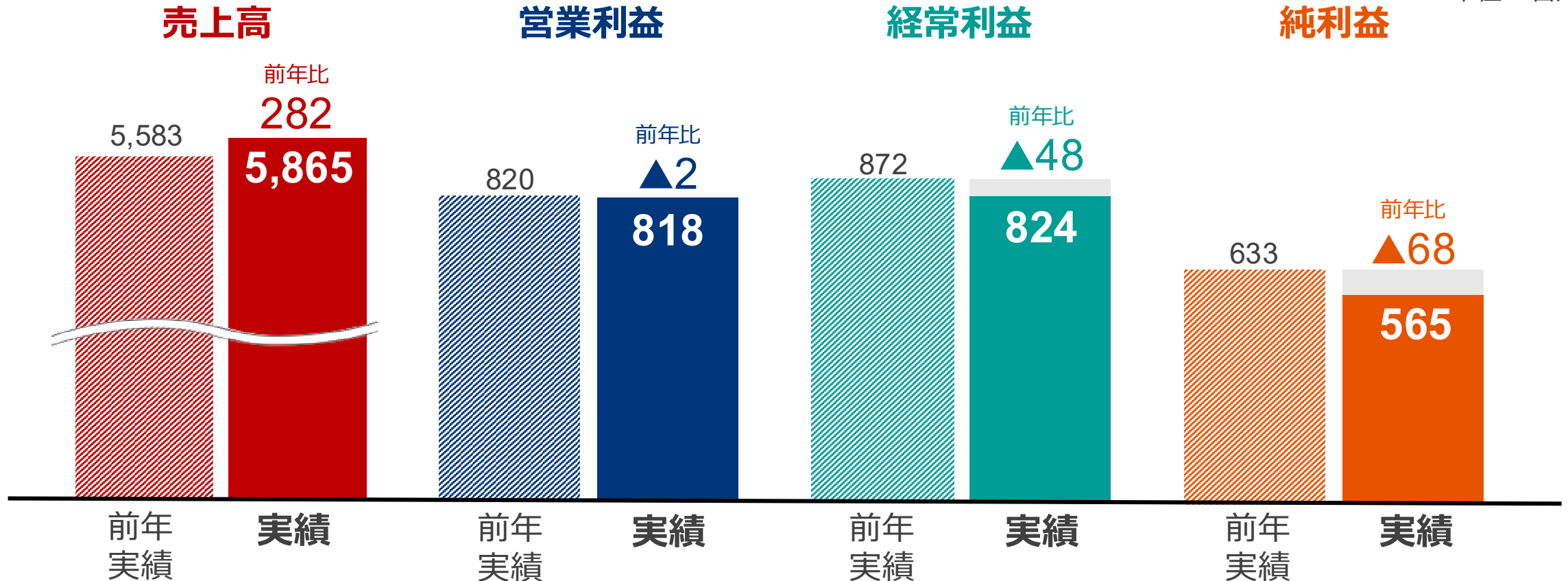
単位：百万円



損益計算書 前年比・主な変動要因〔連結〕

- 電子部品・産業機器向け製品の販売が堅調に推移し、売上に貢献しました。利益面は原材料・エネルギー価格の高騰が影響したものの、販売価格の引き上げや高収益製品の販売増加が収益に寄与しました。

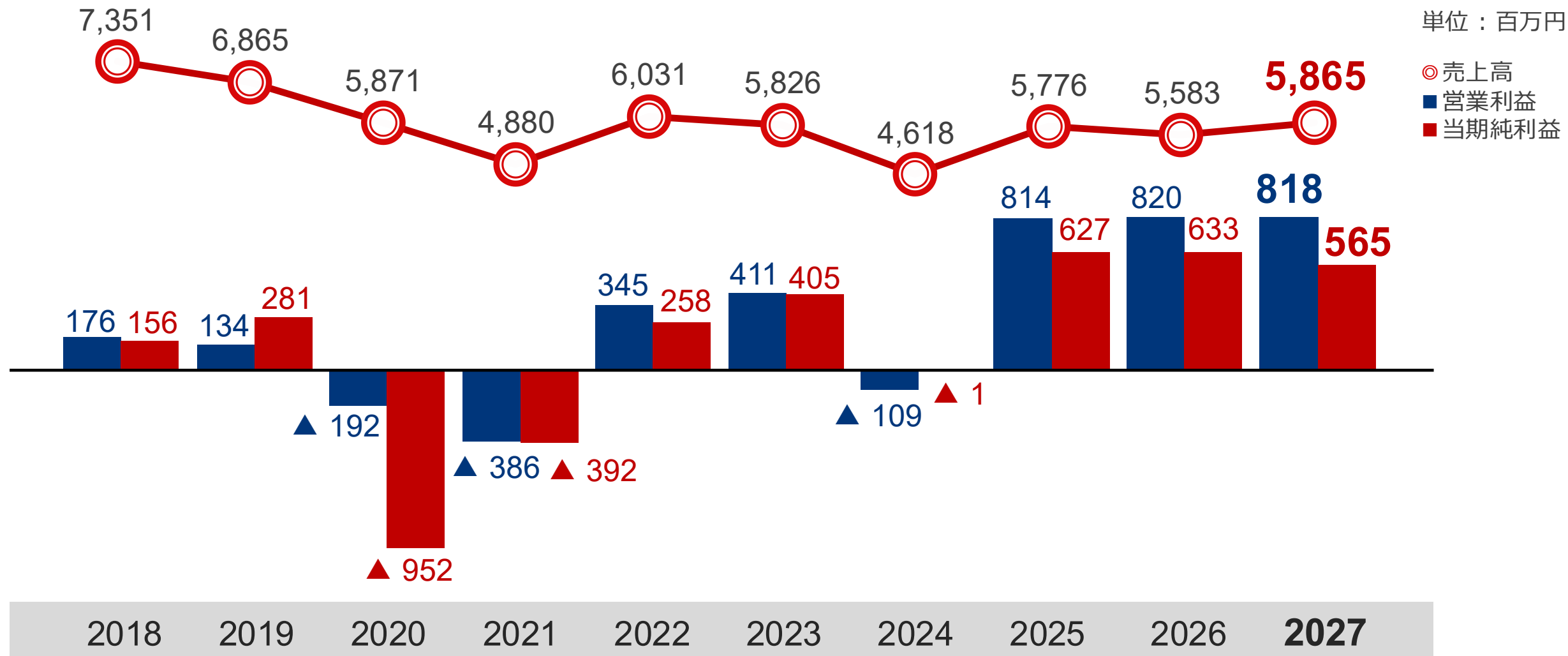
単位：百万円



売上高・営業利益・純利益 [連結]

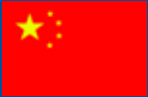
2018年3月期～2027年3月期 中間期比較

単位：百万円



KIMOTOグループ業績

単位：百万円

		日本	アメリカ	スイス	中国
					
売上高	2027年 3 月期 中間期	5,438	445	185	72
	2026年 3 月期 中間期	4% UP 5,243	40% UP 319	30% DOWN 264	102% UP 35
営業利益	2027年 3 月期 中間期	891	▲ 65	▲ 16	▲ 16
	2026年 3 月期 中間期	963	▲ 105	▲ 6	▲ 36

※上記の売上高は内部取引を考慮しておりません。

KIMOTOグループトピックス

日本



通信機器向けは新機種の量産や粘着製品の堅調な推移により売上水準を維持しました。電子部品製造工程用製品が好調に推移したほか、輸送機器向けの粘着製品やバッテリー製造工程用製品、産業機器向けのハードコート・遮光・半導体関連製品も伸長し、業績に貢献しました。

アメリカ



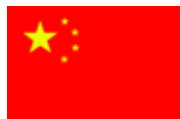
主要顧客向けの販売増加に伴う生産量の拡大と原価低減により、前年同期比で業績は回復基調となりました。今後も新規顧客の開拓と販売拡大を推進し、更なる収益力の向上を目指します。

スイス



自動車向け製品が低迷する中、白物家電向け製品では一部に好調な動きが見られました。更に、医療・半導体などの新規市場開拓と新製品の販売拡大を推進し、業績回復を目指します。

中国



BIM/CIMモデル作成やトンネル内ひび割れ調査案件が好調に推移しました。今後も既存案件の拡大と技術開発による原価低減を推進し、更なる収益力の強化に取り組んでまいります。

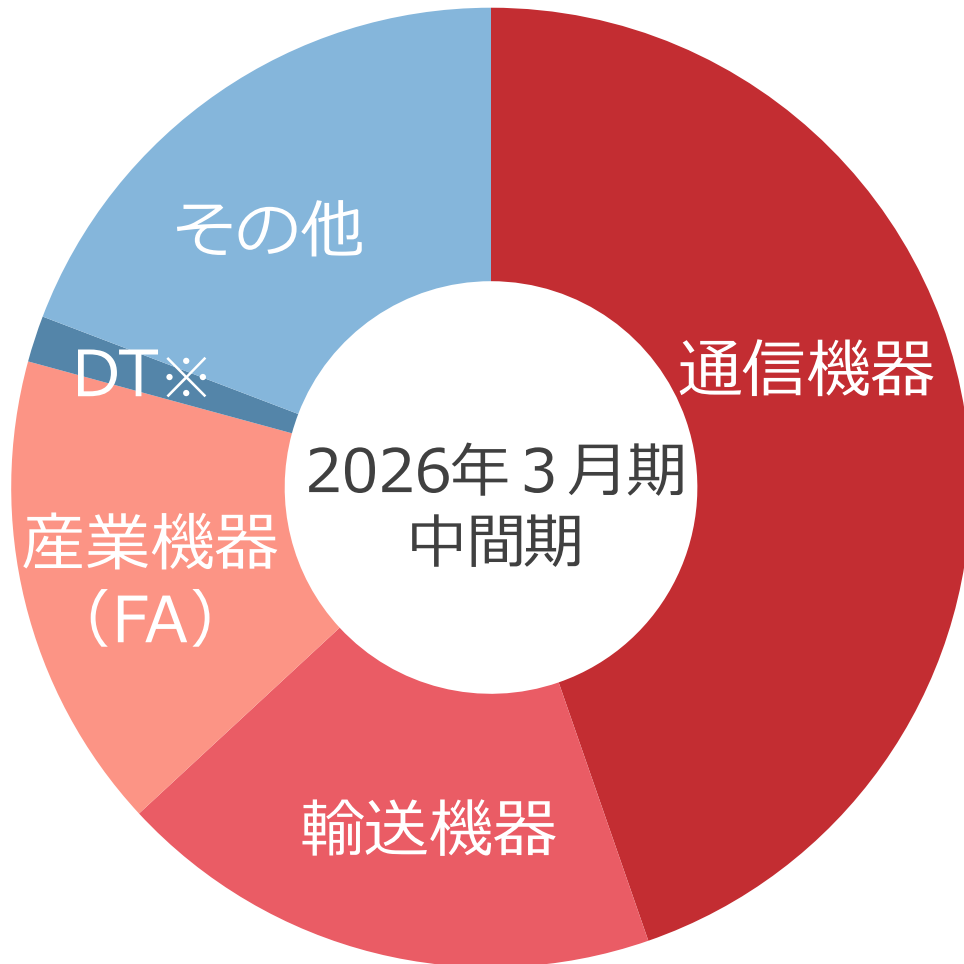
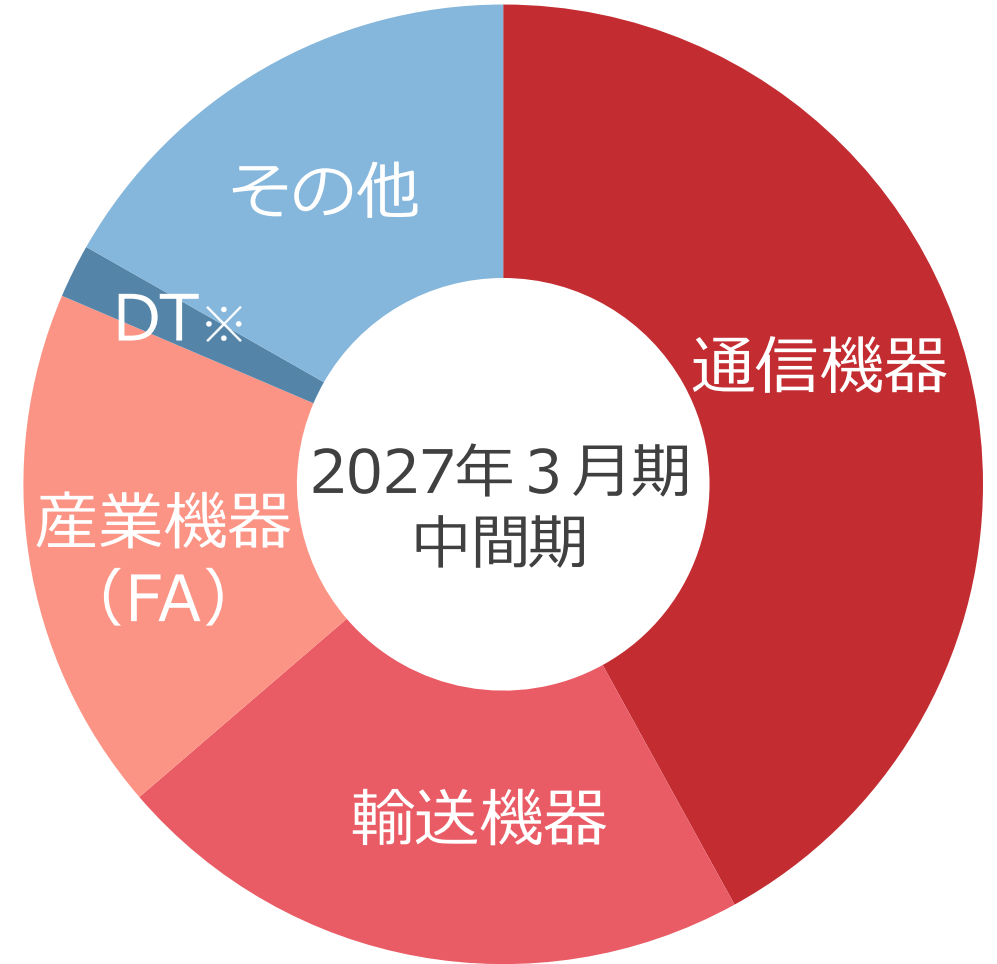
【日本】 売上構成

単位：百万円

	2026年 3 月期 中間期	構成比	2027年 3 月期 中間期	構成比	増減	増減率(%)
高機能材料事業	5,161	98.4%	5,340	98.2%	178	3.5%
通信機器	2,342	44.7%	2,283	42.0%	▲ 59	▲ 2.5%
輸送機器	966	18.4%	1,180	21.7%	214	22.2%
産業機器	845	16.1%	963	17.7%	118	14.0%
その他	1,006	19.2%	911	16.8%	▲ 95	▲ 9.5%
デジタルツイン事業	81	1.6%	98	1.8%	16	20.1%
3D	17	0.3%	41	0.8%	23	138.2%
2D	37	0.7%	37	0.7%	▲ 0	▲ 1.3%
コンサルティング	8	0.2%	1	0.0%	▲ 7	▲ 86.0%
その他	17	0.3%	18	0.3%	0	4.7%

【日本】売上構成

■ 通信機器向けは売上水準を維持し、産業機器向けおよび輸送機器向け製品も売上増加に寄与しました。



※デジタルツイン

【アメリカ】 売上構成

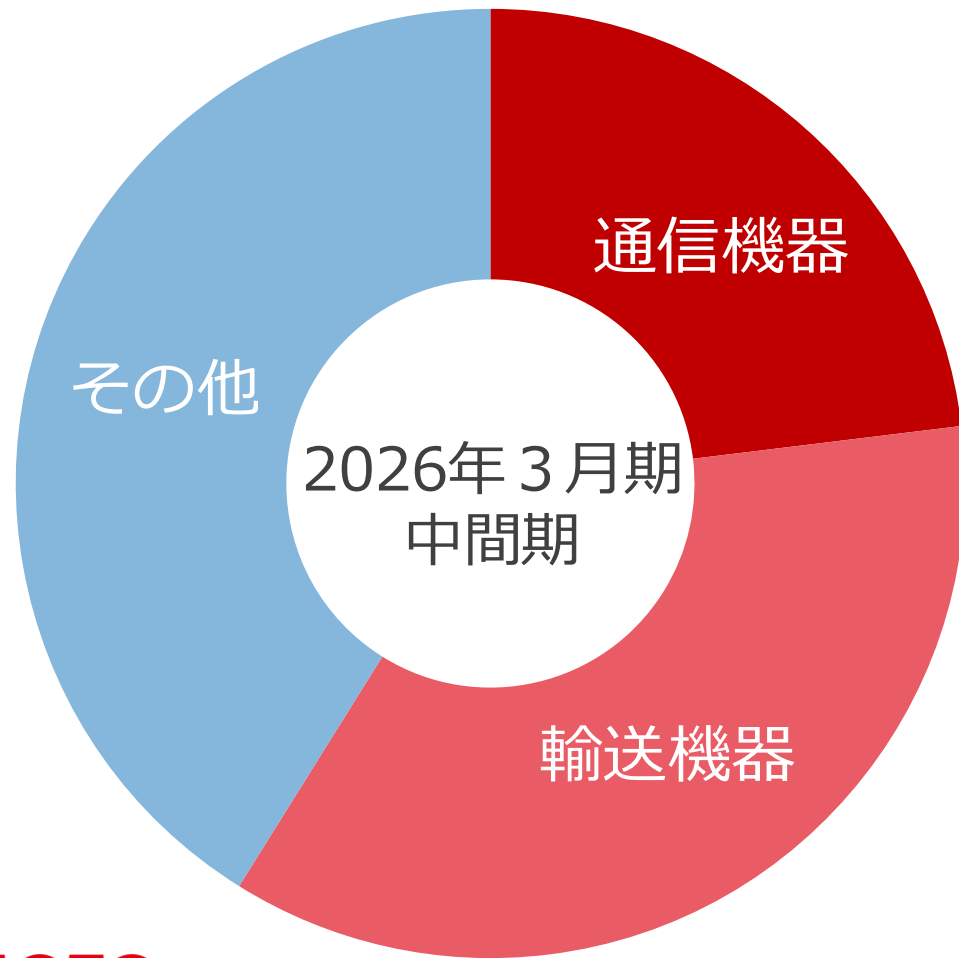
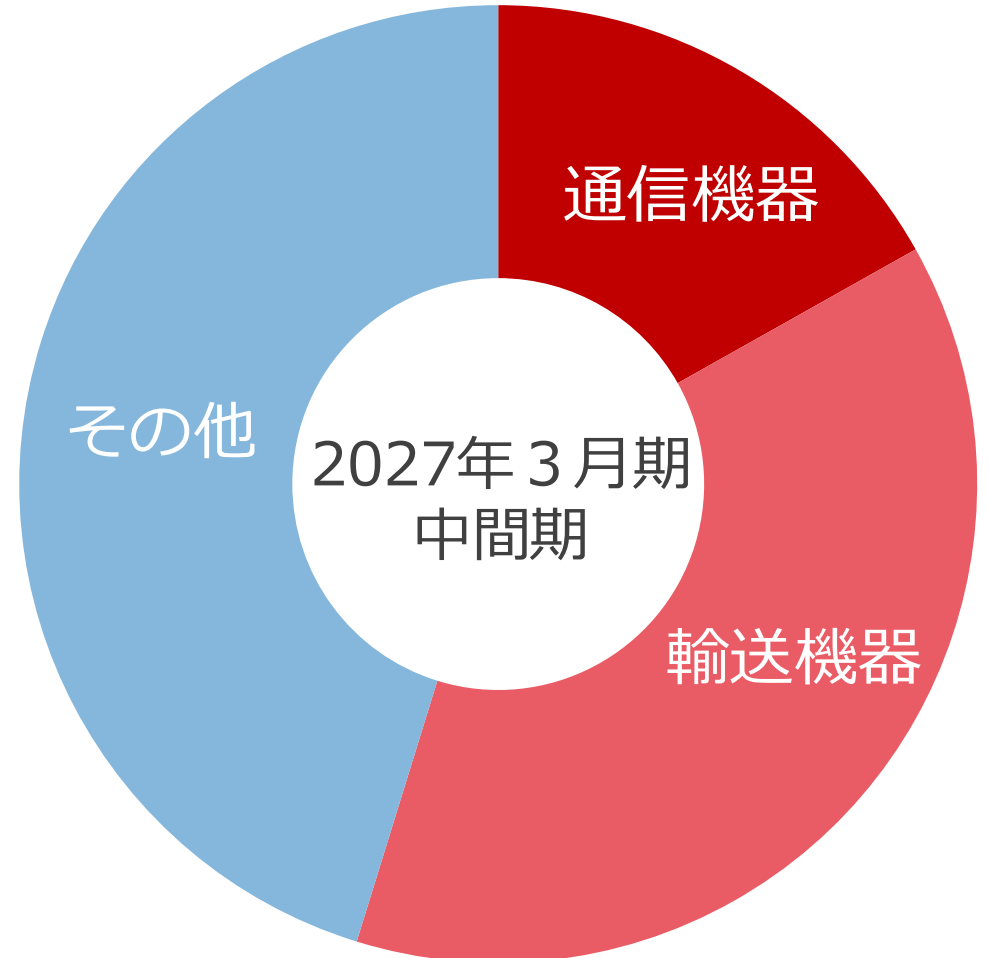
単位：百万円

	2026年 3 月期 中間期	構成比	2027年 3 月期 中間期	構成比	増減	増減率(%)
高機能材料事業	319	100.0%	445	100.0%	126	39.5%
通信機器	73	23.1%	75	16.8%	1	1.9%
輸送機器	114	35.8%	169	37.9%	54	47.7%
その他	131	41.1%	201	45.2%	70	53.4%

※上記の売上高は内部取引を考慮しておりません。

【アメリカ】売上構成

■ 主要顧客向けの販売増加に伴う生産量の拡大と原価低減により、前年同期比で業績は回復基調となりました。



【スイス】 売上構成

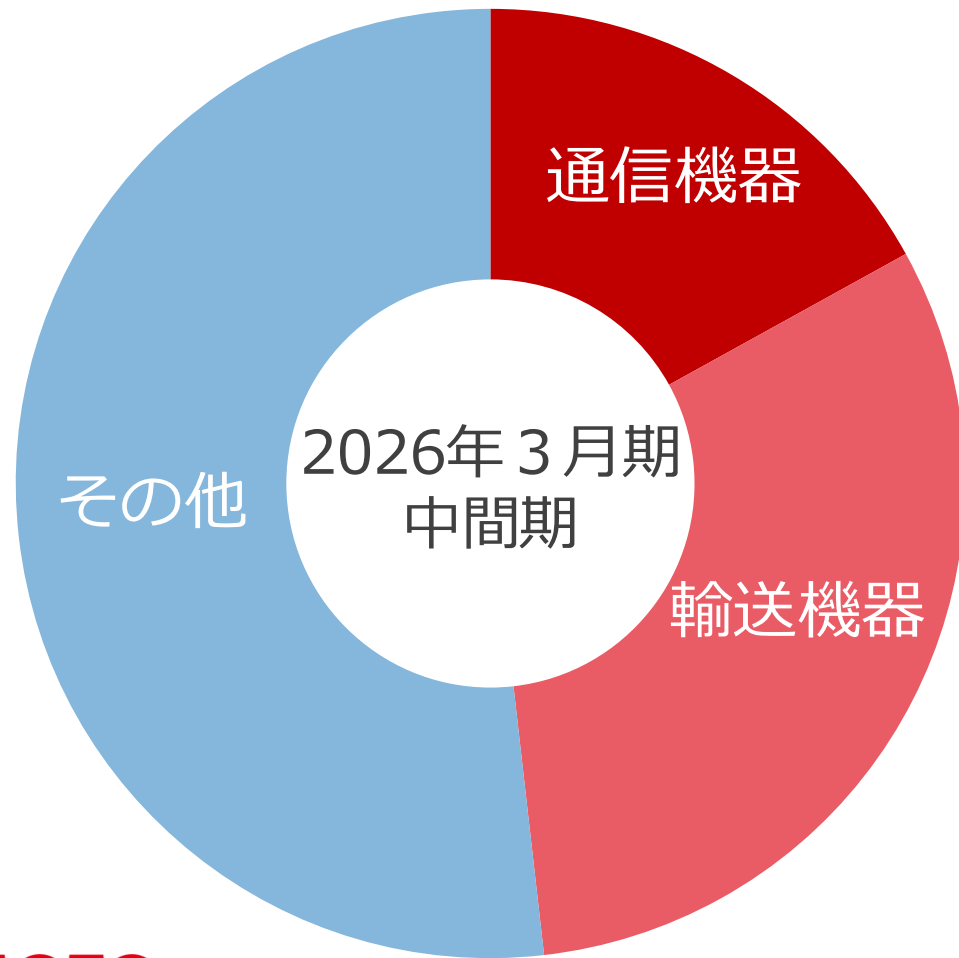
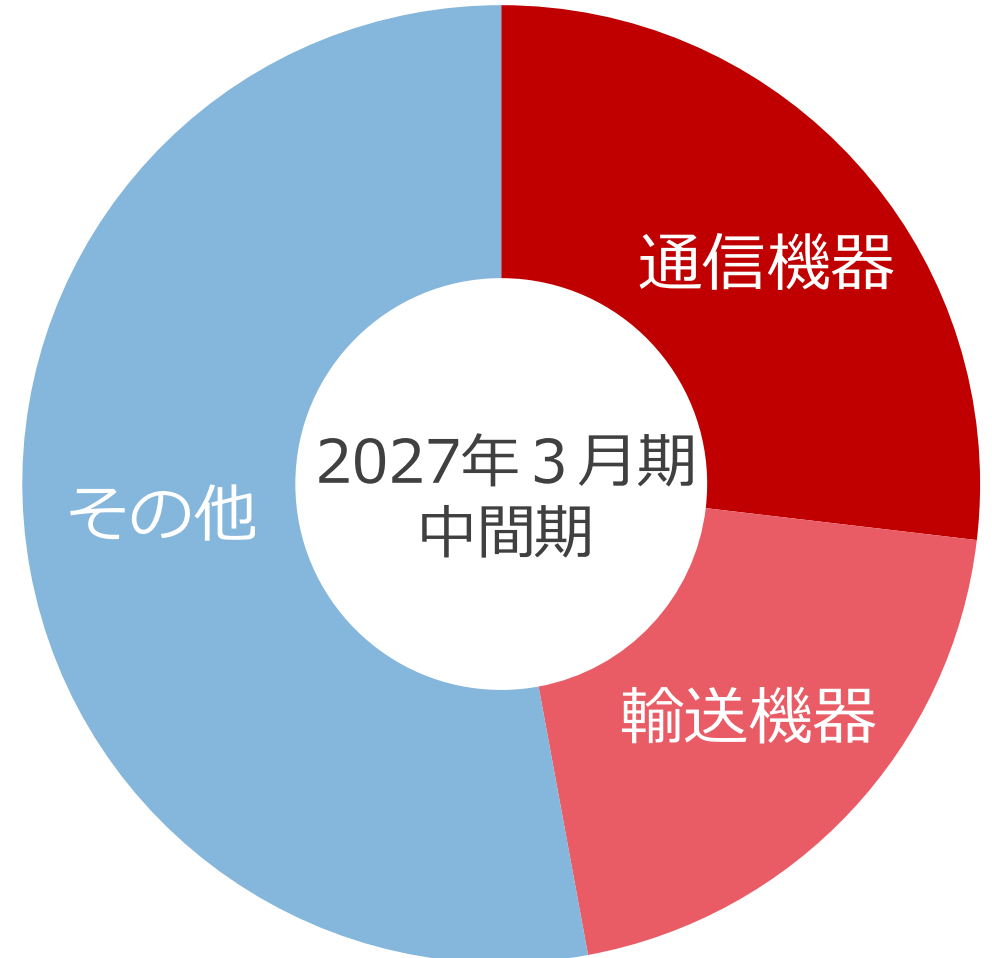
単位：百万円

	2026年 3 月期 中間期	構成比	2027年 3 月期 中間期	構成比	増減	増減率(%)
高機能材料事業	264	100.0%	185	100.0%	▲ 78	▲ 29.8%
通信機器	44	17.0%	49	26.9%	5	11.2%
輸送機器	82	31.2%	37	20.2%	▲ 45	▲ 54.5%
その他	137	51.8%	98	52.9%	▲ 38	▲ 28.3%

※上記の売上高は内部取引を考慮しておりません。

【スイス】売上構成

■ 白物家電は一部に好調な動きが見られるものの、自動車産業は引き続き低迷しています。



【中国】 売上構成

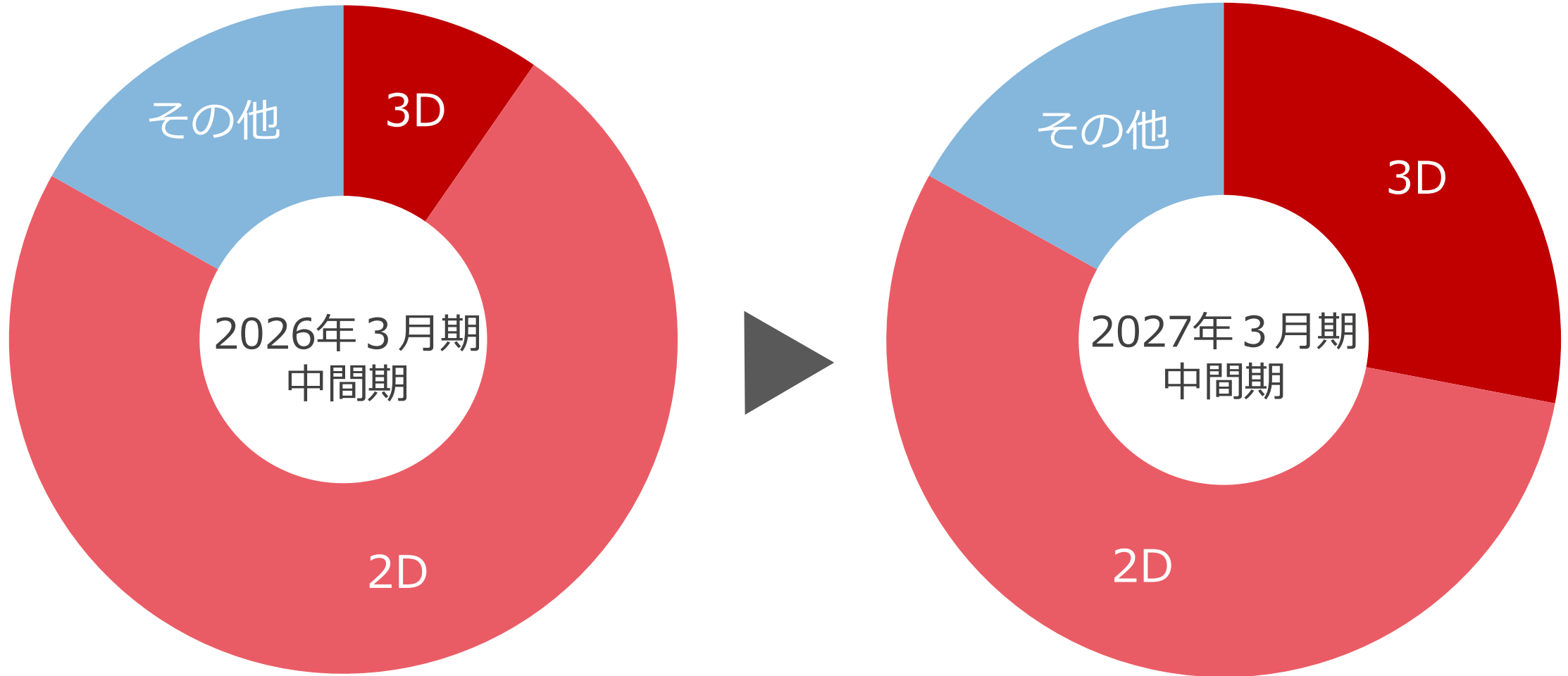
単位：百万円

	2026年 3 月期 中間期		構成比	2027年 3 月期 中間期	構成比	増減	増減率(%)
デジタルツイン事業	35	100.0%		72	100.0%	36	101.5%
3D	3	9.7%		20	28.0%	16	484.8%
2D	26	73.5%		39	55.1%	13	51.1%
その他	6	16.9%		12	16.9%	6	102.1%

※上記の売上高は内部取引を考慮しておりません。

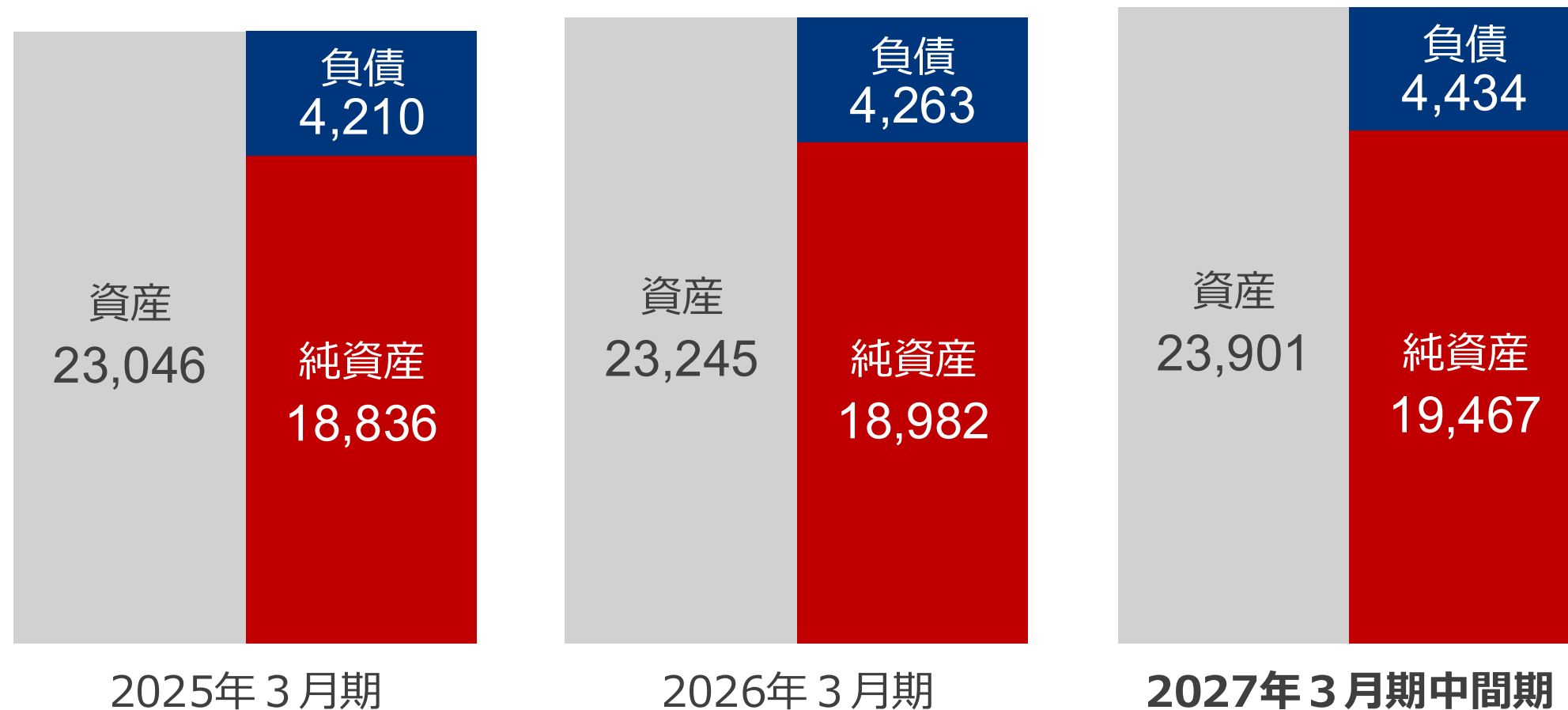
【中国】売上構成

- BIM/CIMモデル作成やトンネル内ひび割れ調査案件が好調に推移しました。



貸借対照表〔連結〕

2025年3月期～2027年3月期中間期 比較



2027年 3 月期 第 2 四半期（中間期） 貸借対照表〔連結〕 主な変動要因

単位：百万円

資産	対前期末比	負債	対前期末比
656		171	
投資有価証券	229	設備関係債務	269
建物及び構築物（純額）	214	繰延税金負債	76
電子記録債権	163	電子記録債務	▲146
		純資産	対前期末比
		484	
		利益剰余金	391
		その他有価証券評価差額金	158

1 2027年3月期 第2四半期（中間期） 決算について

2 高機能材料事業

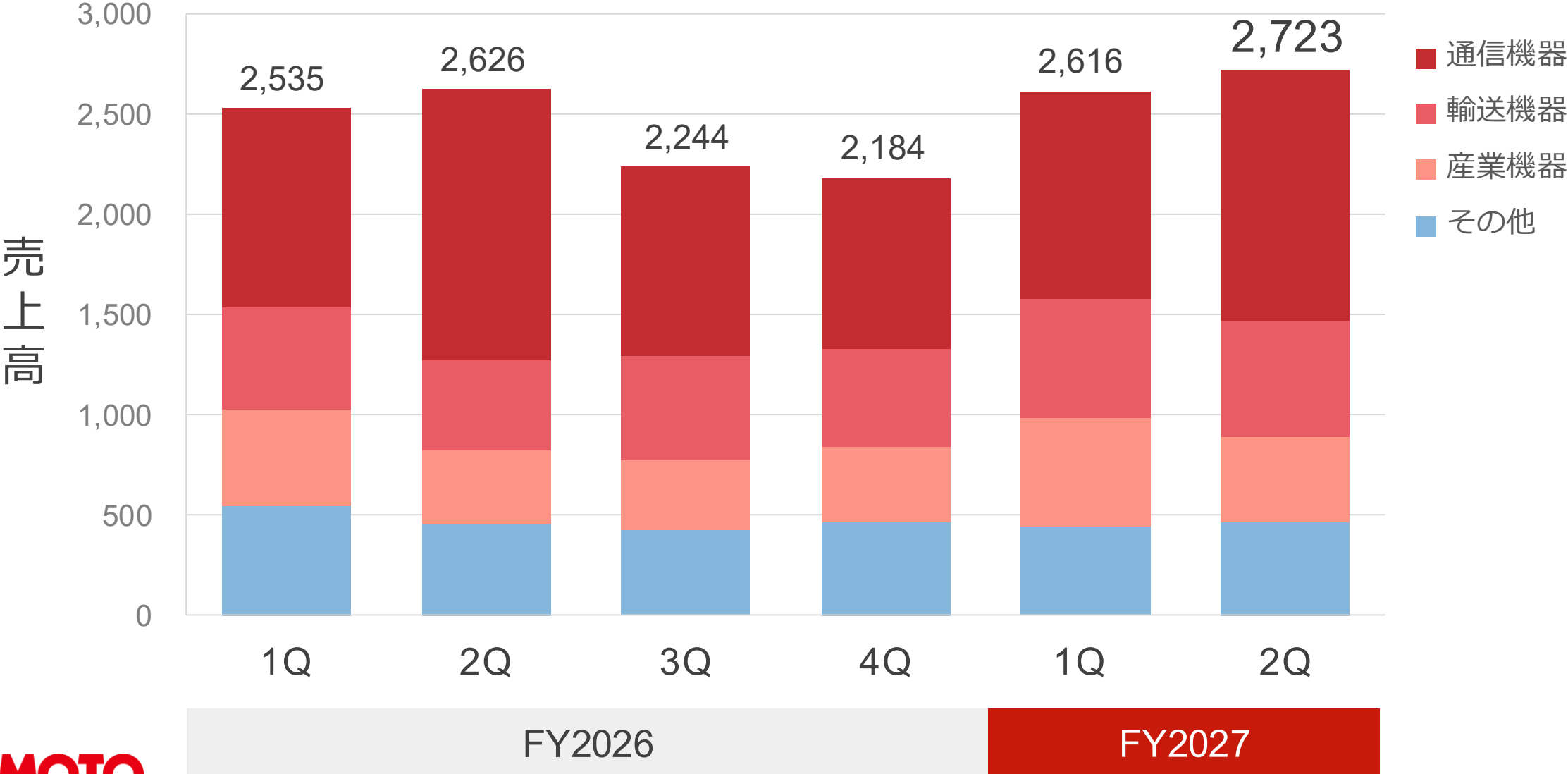
3 デジタルツイン事業

4 第6次中期経営計画進捗

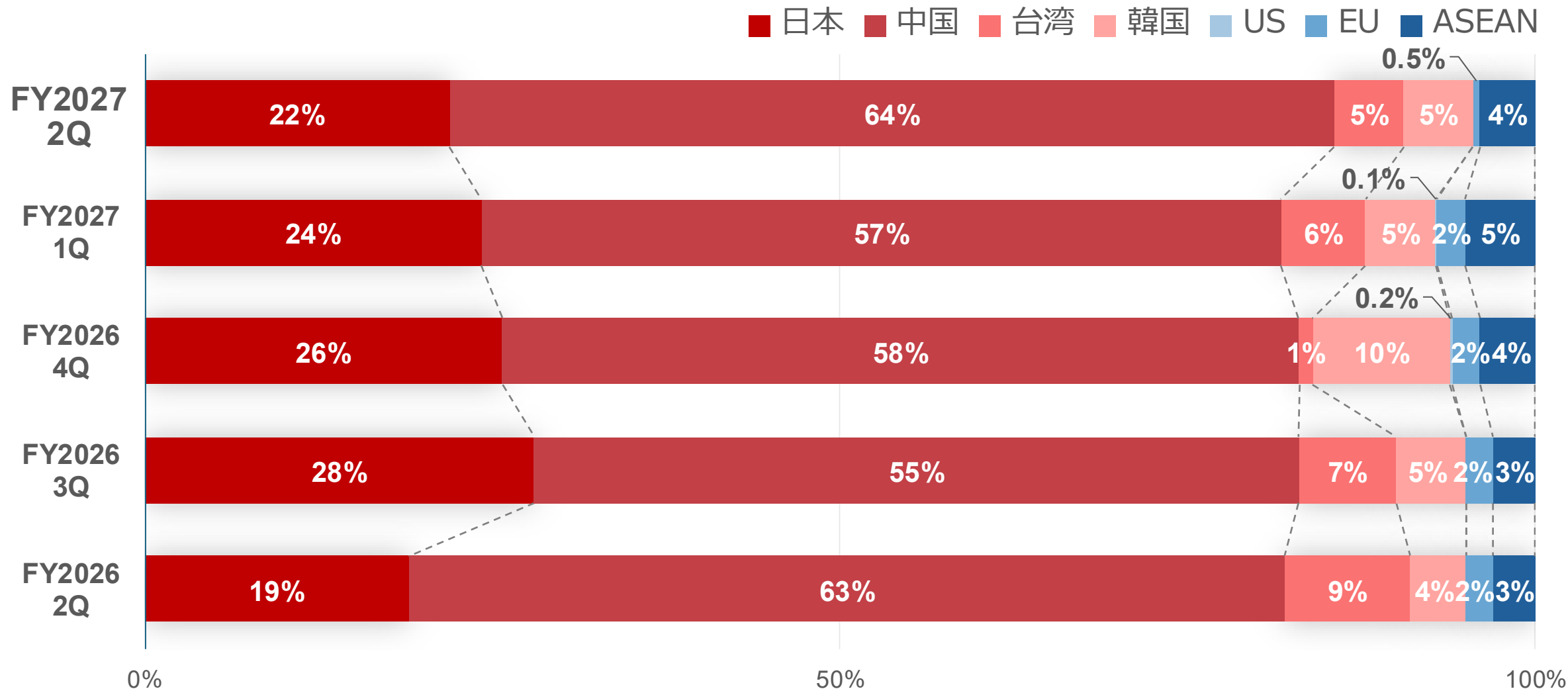
5 会社概要

【日本】売上推移（四半期）

単位：百万円

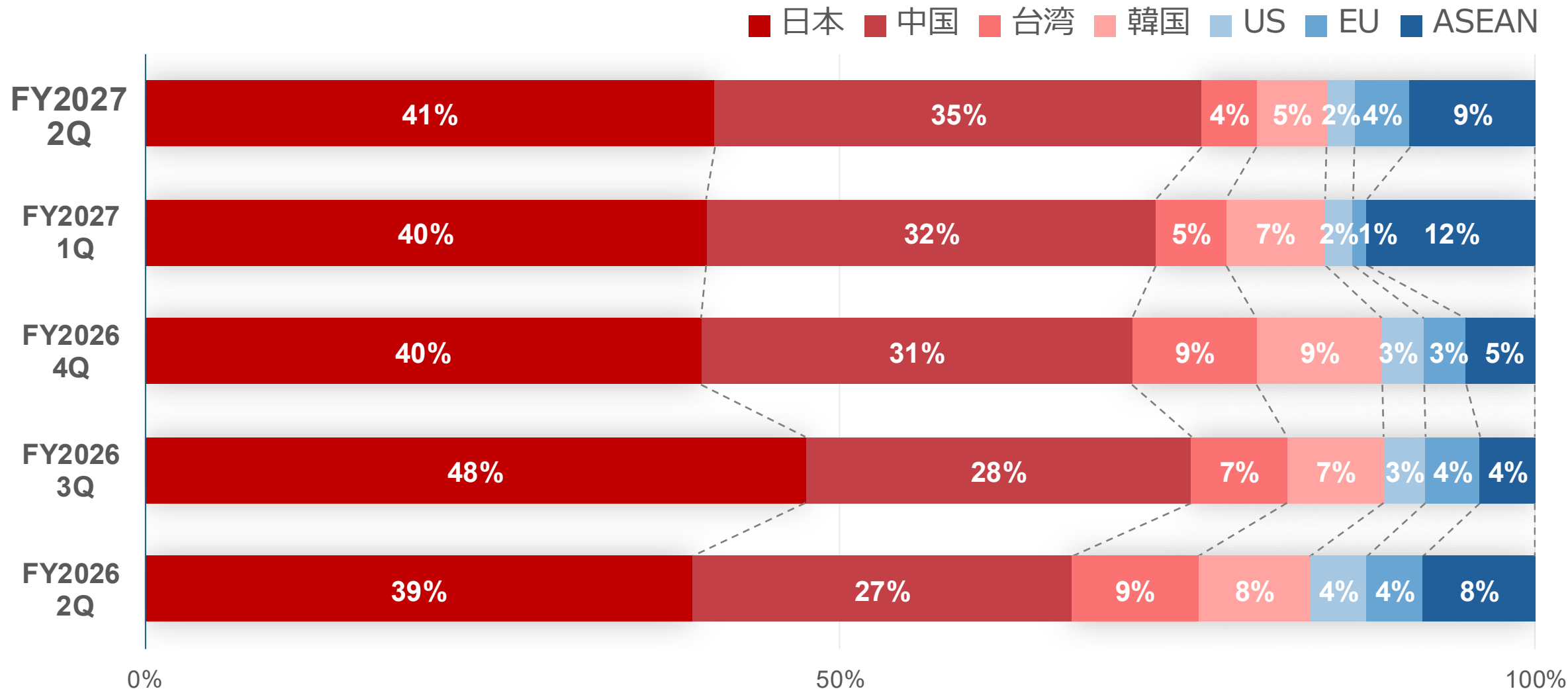


【日本】 通信機器 エリア別 主要製品 売上構成※



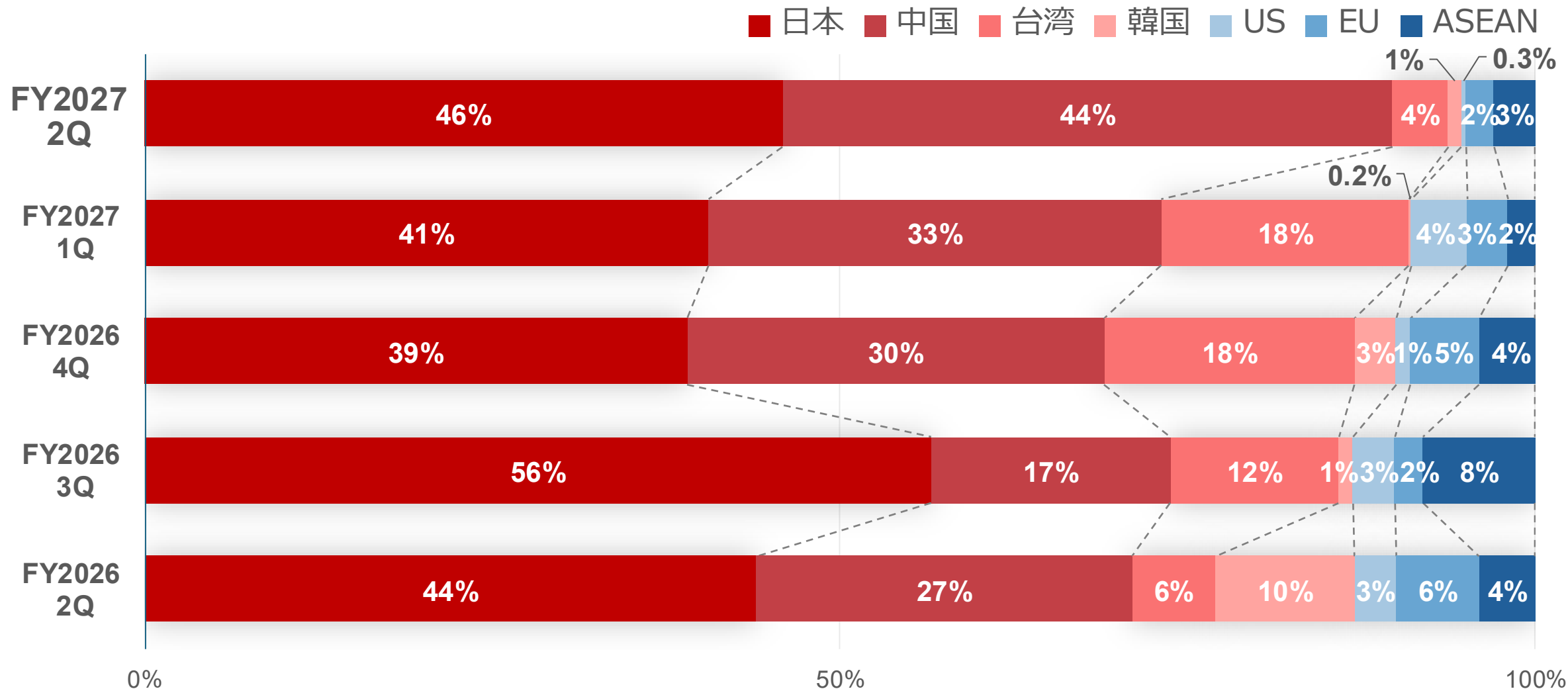
※主要製品：粘着、遮光、拡散、ハードコート、サンドブラスト

【日本】 輸送機器 エリア別 主要製品 売上構成※



※主要製品：粘着、遮光、拡散、ハードコート、サンドブラスト

【日本】産業機器 エリア別 主要製品 売上構成※

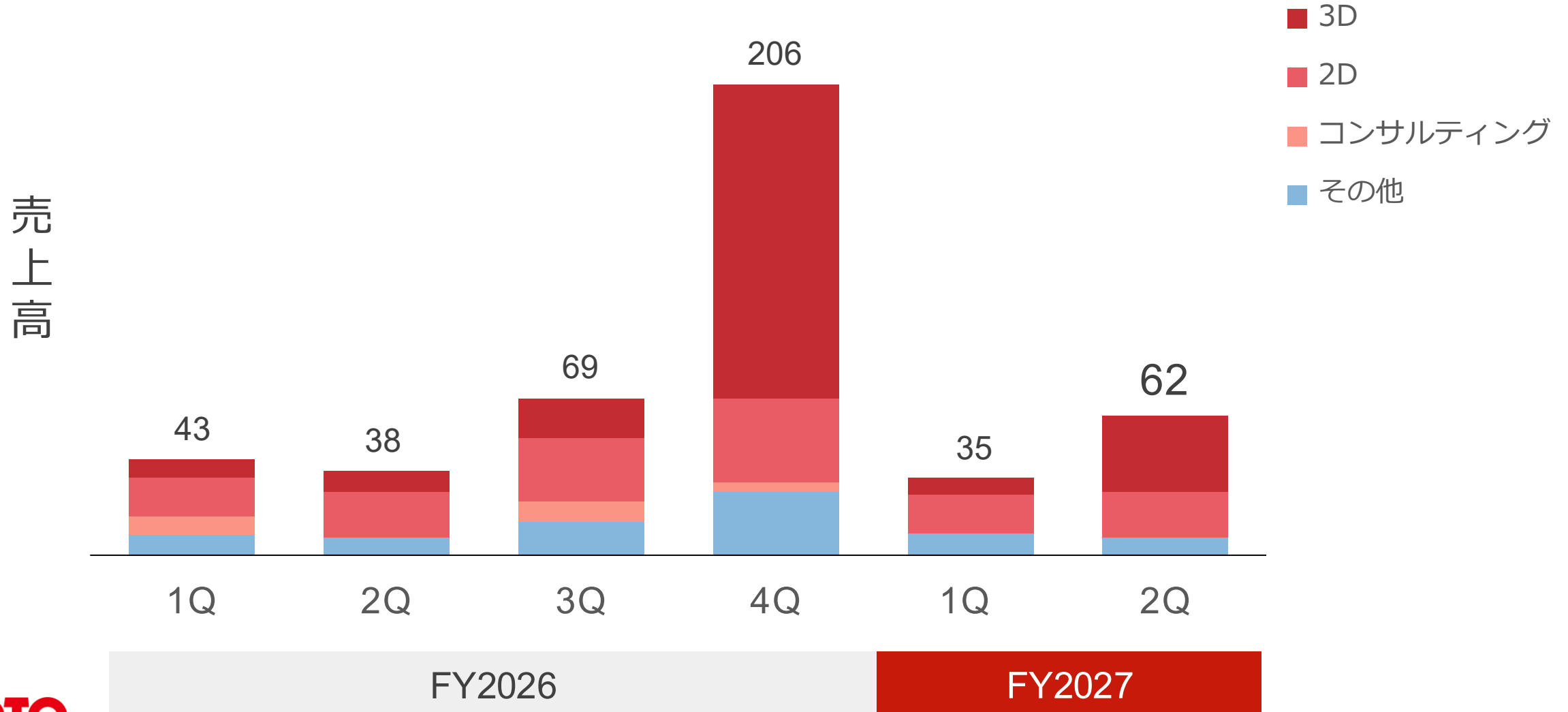


※主要製品：粘着、遮光、拡散、ハードコート、サンドブラスト

- 1 2027年3月期 第2四半期（中間期） 決算について
- 2 高機能材料事業
- 3 デジタルツイン事業**
- 4 第6次中期経営計画進捗
- 5 会社概要

【日本】デジタルツイン事業売上推移（四半期）

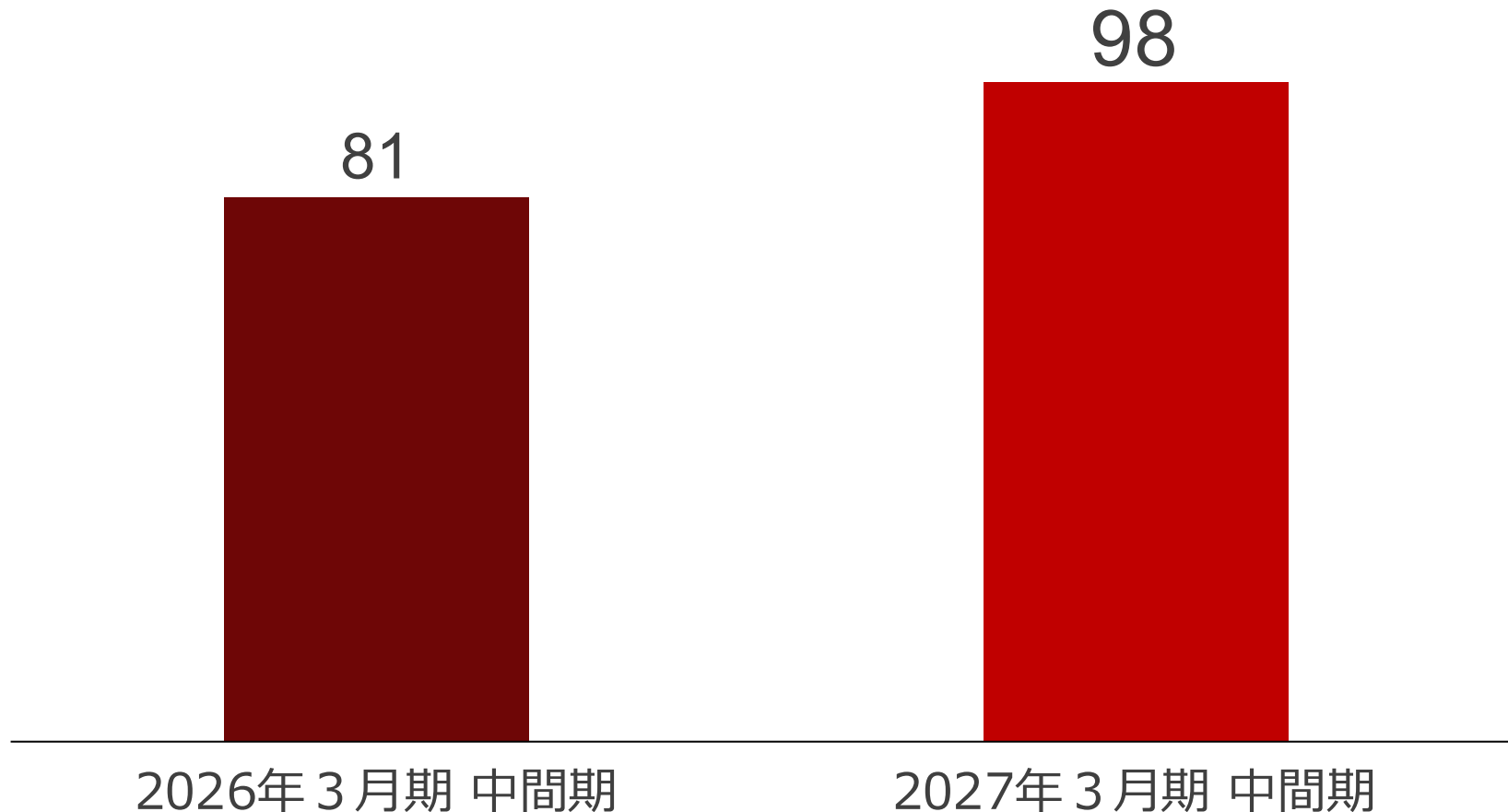
単位：百万円



【日本】デジタルツイン事業売上高

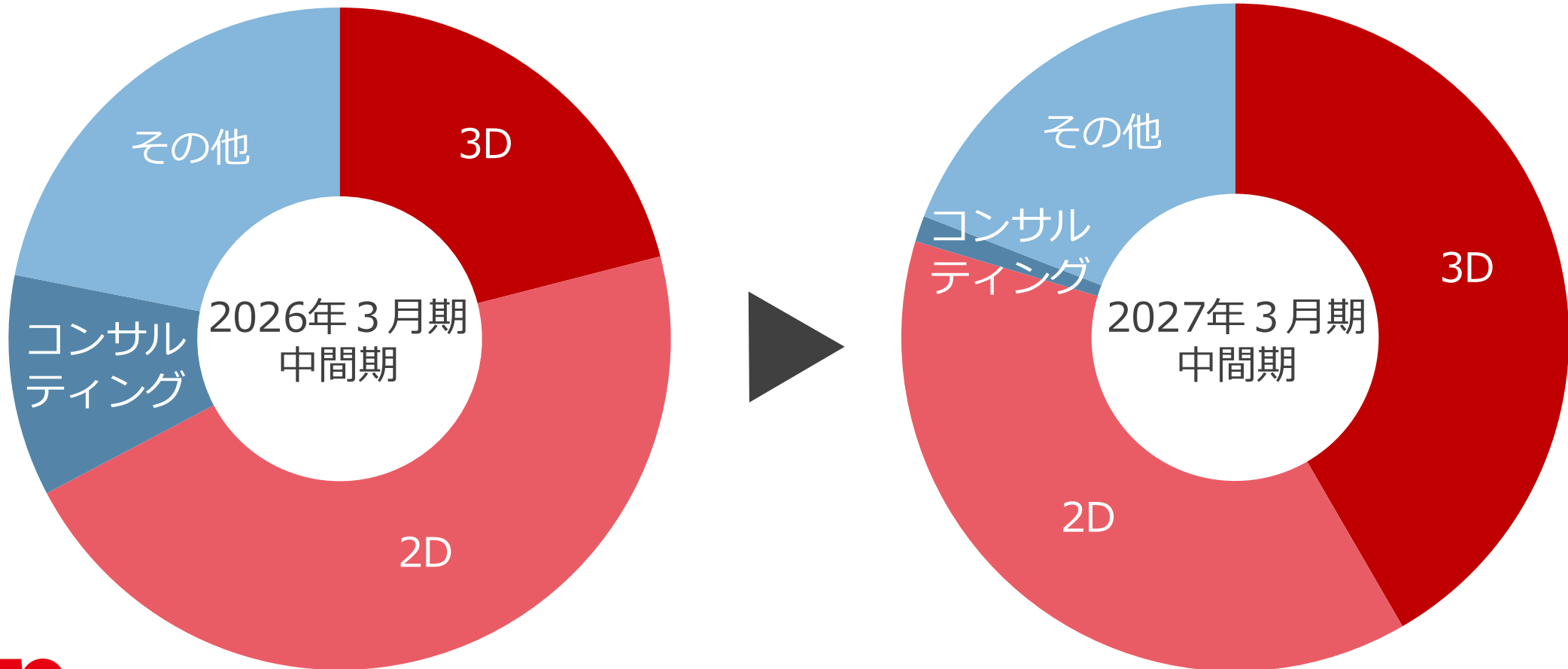
- 3D空間データ作成サービス「SPLAT TWIN」を中心に、建設・製造業分野での3D関連案件が増加しています。

単位：百万円



【日本】 デジタルツイン事業売上高構成

- 3D空間データ作成サービス「SPLAT TWIN」をはじめとする3D関連案件の売上が伸長しました。また、2Dデータ作成ではトンネル内ひび割れ調査案件が堅調に推移し、売上に貢献しました。



- 1 2027年3月期 第2四半期（中間期） 決算について
- 2 高機能材料事業
- 3 デジタルツイン事業
- 4 第6次中期経営計画進捗**
- 5 会社概要

2027年3月期 第2四半期（中間期）の進捗

事業成長

- ・ **デジタルツイン事業 2028年3月期売上高 1,000百万円（目標）**

3D空間データ作成サービス「SPLAT TWIN」は、建設分野において道路拡幅や橋梁補修などのインフラ維持管理への活用が進んでいます。また、製造業分野では、大手メーカーから大型工場の移設計画や設備管理に向けた本格導入案件を受注するなど、実証実験の段階を超えた実用化に向けた取り組みが進展しています。

- ・ **高機能材料事業（半導体） 2028年3月期売上高 400百万円（目標）**

AIデータセンター関連需要の拡大を背景に、半導体分野における工程材料の販売が好調に推移しております。今後も市場ニーズを的確に捉えながら、注力分野として拡販を進めてまいります。

2027年3月期 第2四半期（中間期）の進捗

企業マネジメント

・IT・DX戦略

全社的なDXへの意識向上を目的として、デジタルツインとDXのつながりをテーマとした勉強会を実施しました。各部門の業務におけるDXへの理解を深めるとともに、今後全社一丸となってDXを推進し、業務効率と生産性の向上を目指してまいります。

・企業価値向上

KIMOTOファームの「実りの百年米」は、2026年度の有機JAS認証審査において、塩崎圃場が転換期間を終えて「有機農産物」として認証されるとともに、新たに菖蒲脇圃場が「転換期間中有機農産物」として認証されました。今後も環境に配慮した米づくりを通じて、地域社会や自然との共生に取り組み、企業価値の向上につなげてまいります。

第6次中期経営計画 資料および動画のご案内

- ▶ 資料PDFはこちらから

<https://www.kimoto.co.jp/application/files/9117/5015/1736/20262028.pdf>

- ▶ 動画のご視聴はこちらから

https://www.kimoto.co.jp/investor/news_20250523

- 1 2027年3月期 第2四半期（中間期） 決算について
- 2 高機能材料事業
- 3 デジタルツイン事業
- 4 第6次中期経営計画進捗
- 5 会社概要**

会社概要

社名	株式会社 きもと（英語表記：Kimoto Co., Ltd.）
創立	1952年7月2日
代表者	代表取締役社長 小林 正一
所在地	〒511-0411 三重県いなべ市北勢町京ヶ野新田450
資本金	32億74百万円
従業員数	連結：417名／単体：341名（2026年3月末日現在）
売上高	連結105億円（2026年3月期）
上場市場	東証スタンダード市場（証券コード：7908）



創業当時
航空写真現像・図面複製業務の様子

創業社長
木本 氏仁

おかげさまで
数々の賞と選定を
いただいております



令和5年度 Nextなでしこ
共働き・共育て支援企業
（経済産業省選定）



日経サステナブル総合調査
スマートワーク経営編 3.5つ星
（日本経済新聞社）



日経サステナブル総合調査に
基づくスマートワーク経営に
優れた企業として選出
（日本経済新聞社）

- 建設事業関係功労者等
国土交通大臣表彰
- 日本国土調査測量協会より
国土交通大臣表彰を受賞

沿革



国内・海外拠点



- 国内主要拠点
- 海外主要拠点
- リモート拠点



国内 Japan

三重県／三重工場



コーティングマシン

塗工幅 MAX 1,600mm
塗膜厚み 0.5μm～40μm

Clean Class

作業エリア Class 1,000 / コーティング
マシンエリア Class 1,000 /
コーティングヘッド Class 100

茨城県／茨城工場



サンドブラストマシン

加工幅 MAX 1,300mm
加工厚み 25μm～350μm
加工粗さ 0.3μm～0.8μm

少量塗工機「APOLO」

塗工幅 MAX 300mm
基材 PET、アクリル、TAC、PC
塗工 ダイ、グラビア、バー



海外 Overseas

アメリカ／ジョージア州



コーティングマシン「Line2」

塗工幅 MAX 1,550mm
塗膜厚み MAX 100μm
塗工 ダイ、グラビア、バー

少量塗工機「LC3」

塗工幅 MAX 770mm
基材 PET、アクリル、TAC、PC
塗工 ダイ、グラビア、バー

中国／瀋陽



データセンター

BIM/CIMデータ作成
3Dデータ作成
製造業DX向けデータ作成
アプリケーション開発

事業内容



機能性フィルム開発・製造
高機能性液開発・製造

高機能材料 事業

High Performance
Materials



働き方改革
製造業DX

コンサルティング 事業

DX Consultant

デジタルツイン 事業

Digital Twin



BIM／CIMデータ
アプリケーション開発



地域活性活動
米栽培
ダリア園運営

ファーム 事業

Kimoto Farm

KIMOTO

Building
a New Era
of Value





つながる“すべてのモノ”が環境にやさしくあるために
私たちのノウハウで貢献する未来

本資料は情報提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。
本資料（業績見通しを含む）は、現時点で入手可能な情報と合理的であると判断する一定の前提に基づいて当社が作成したものであります。
実際の業績等は様々な要因により、大きく異なる結果となる可能性がございます。